

# 中施策評価書

作成日 令和元年 7月 25日

中施策事業名	医療介護連携推進事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	市民が安心できる地域の医療・福祉をつくる民間の活動を支援する
④中施策事業の対象	医療介護関係機関・従事者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	連携がスムーズになされ、質の高いケアを提供できている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療介護連携推進事業に関すること</li> <li>いきいき笑顔ネットワークに関すること</li> <li>多職種人材育成事業に関すること</li> <li>多職種合同ケアカンファレンスに関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ICTいきいき笑顔 ネットワークにより 多種職連携のもと 支援される高齢者 の人数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	520	540	560	580	590	600
	実績値	660	680				
単位	人						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額		予算額		
		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
① 総事業費(a+b)		19,699千円		11,464千円				
人 件 費	a 事業費合計	16,776千円		11,464千円		12,202千円		
	正規職員	人数	0.5人		0人			
		b 金額	2,923千円		0千円			
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0.5人		0人			
		金額	2,390千円		0千円			
人件費合計		5,313千円		0千円				
② 補助金等(収入)		13,085千円		9,257千円		0千円		
③ コスト(①-②)		6,614千円		2,207千円				
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		96円		32円				

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	「医療介護サポートセンターかけはし」の設置により、入院患者の退院に向けたサポートが強化され、患者や家族の安心が拡大している。また、センターの運営を藤田医科大学と東郷町との共同設置とし、財政負担が軽減している。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成30年度に「医療介護サポートセンターかけはし」が実施した在宅医療・介護連携に関するアンケート結果の報告を受け、課題を共有し、対応策を検討する。また、いきいき笑顔ネットワークの活用については、尾三消防本部との連携利用を研究していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	上記において把握した課題に基づき、関係医療機関との協議する。また、いきいき笑顔ネットワークの活用については、引き続き連携利用を研究していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 7月 1日

中施策事業名	成人検（健）診事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している		
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する		
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	1年に1度検（健）診を受診する。結果により、医療機関への受診等、健康に過ごすための行動を起こすことができる		
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・がん検診 ・歯科健診 ・骨粗鬆症検診 ・特定健診 ・はつらつ健診 ・35-39歳健診 ・成人健診		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
胃がん検診における精密検査受診率 (要精密検査者数÷精密検査受診者数)	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	87	88	88	89	89	90
	実績値	74.1	97				
単位	%						
各種がん検診延受診人数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	25,000	26,000	27,000	28,000	28,000	28,000
	実績値	22,616	23,934				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)		191,170千円	178,434千円	
人件費	a 事業費合計	173,635千円	178,434千円	164,464千円
	正規職員	人数	3人	0人
		b 金額	17,535千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1.5人	0人
		金額	1,175千円	0千円
人件費合計		18,710千円	0千円	
② 補助金等(収入)		35,725千円	37,281千円	35,971千円
③ コスト(①-②)		155,445千円	141,153千円	
市民一人あたりコスト (③÷市の人口(評価対象年度末時点))		2,259円	2,051円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	精密検査受診率は未受診者への受診勧奨・受診状況確認(返答書の様式の簡略化)や医療機関との連携にて受診率を上げることができた。健診について市民への周知が足りない部分が見られる。検診のメリット・デメリットを伝え、PR活動を実施する必要がある。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	検診を受診しやすい土・日曜日の開催を継続。まちかど運動教室や健康マージャン等人が集まる場を借りてのPR活動、個人通知のデザイン変更、申込方法の簡便化等を実施。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	保険加入時や年齢の節目時期を利用して、医療費状況や健診の紹介説明を実施。広報やホームページ、市が実施する事業等でPR活動を強化。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	個人通知対象者の拡大を次年度改善案で検討していたが、受診済の対象者を除く時期を重視したため、通知発送の時期が遅くなり、通知対象者の拡大をすることができなかった。しかし、精密検査受診率については、医療機関の協力を得て精密検査受診状況を確認することで、受診率が向上した。様式等の簡略化を実施。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	がん検診と骨検診の同日開催することで、受診者数の増加は認められるところもあるが、大きな効果は認められていない。同日実施は継続。個人通知とともにPR等の周知方法を再検討する。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 29日

中施策事業名	休日診療所事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる
④中施策事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日・祝祭日、年末年始に豊明市休日診療所を受診した者</li> <li>・市民</li> </ul>
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切にかかりつけ医を受診できている</li> <li>・急病の場合、豊明市診療所を知っており受診できている</li> <li>・緊急時に受診できる病院を知っており、受診することができている</li> </ul>
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊明市休日診療所事業</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
患者人数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	実績値	2,290	2,508				
単位	人						
市内にある、休日・夜間に診療可能な病院数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	4	4	4	4	4	4
	実績値	4	4				
単位	件						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		21,384千円	24,205千円		
人件費	a 事業費合計	20,799千円	24,205千円	24,644千円	
	正規職員	人数	0.1人	0人	
		b 金額	585千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	12人	0人	
		金額	3,390千円	0千円	
人件費合計		3,975千円	0千円		
② 補助金等(収入)		21,072千円	25,384千円	20,000千円	
③ コスト(①-②)		312千円	-1,179千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		5円	-17円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	インフルエンザの流行等による患者数の増加に伴い、診療報酬等で収支は保たれている。また、患者数の増加については疾病の流行もあるが、休日診療所についての周知がされていると考えられる。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	急病時の相談先等、広報及びホームページの継続掲載。 31年度は医師会が医療機関情報誌作成するため、市民への周知をはかる。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	急病時の相談先等、広報及びホームページの継続掲載。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 7月 1日

中施策事業名	健康づくり事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	市民の体調や基礎体力を整えるための活動を支援する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民自ら健康の増進や疾病予防のために行動し、また地域全体でも取り組んでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とよあけ健康21計画</li> <li>・特定保健指導</li> <li>・健康マイレージ</li> <li>・食育推進事業</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり事業(出前講座、教室等)</li> <li>・CKD対策</li> <li>・健康相談</li> </ul>		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
とよあけ健康ウォーキング参加人数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	830	830	830	830	830	830
	実績値	575	692				
単位	人						
大金星マイレージシートまいか交換枚数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	50	100	100	100	130	150
	実績値	44	33				
単位	枚						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)		9,750千円	295千円	
人件費	a 事業費合計	398千円	295千円	883千円
	正規職員	人数	1.6人	0人
		b 金額	9,352千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人
		金額	0千円	0千円
人件費合計		9,352千円	0千円	
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)		9,750千円	295千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		142円	4円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	やや改善が必要	△	B
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	ウォーキング活動については、成果指標の参加者数は目標値には届かなかったが、事業の目的となる運動習慣者の割合は10%前後増加した。更なる向上の為にはウォーキングの継続はもとより、運動を始めるきっかけづくりが必要。 大金星マイレージについては、PRの割に市民の認知度が上がっていない。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	厚生労働省もすすめている「+10（プラステン）運動」を毎月広報紙面に「+10（プラステン）から始めよう！」を掲載し、運動や健康づくりの情報提供を実施。 大金星マイレージ認知度向上のため、健診会場や教室等でのPRや職員向けのPRを実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	新規ウォーキング参加者を増やすためにウォーキングコースの見直しやPRの強化をする。 地域サロンやまちかど教室など運動を始めるきっかけづくりとなる情報提供を強化する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	とよあけ健康21計画の指標の1つである運動習慣の定着化について中間評価では10%増加が見られ、目標値の上方修正している。事業としてウォーキング活動は周知されつつあり参加者も10%増加がみられた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	ウォーキング活動をはじめ、健康づくり情報の提供として広報誌に「+10（プラステン）運動」を掲載する。健康づくり事業と介護予防事業（地域サロンやまちかど運動教室等）との連携が実施できていない為を今後検討していく。	



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	敬老事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	数え 88 歳、99 歳、100 歳以上の市民 70 歳以上の独居者への年末お見舞訪問		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	在宅で過ごしている高齢者が増えている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敬老事業の祝金配布事業</li> <li>・ 独居高齢者年末見舞訪問</li> </ul>		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
敬老祝訪問数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	285	290	295	300	310	320
		実績値	318	323				
単位	人							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)			3,521千円	2,174千円	
人件費	a 事業費合計		2,352千円	2,174千円	2,810千円
	正規職員	人数	0.2 人	0 人	
		b 金額	1,169千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.2 人	0 人	
		金額	20千円	0千円	
人件費合計		1,189千円	0千円		
② 補助金等(収入)			1千円	1千円	1千円
③ コスト(①-②)			3,520千円	2,173千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			51 円	32 円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	民生委員等や市内の福祉施設と連携し、目標達成に向けて事業実施を行っている。高齢者数の増加に伴い、対象者数も増えているが、民生委員や、老人クラブ、福祉関係機関と連携しながら、高齢者の孤立化防止や見守りにつながっている。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	地区での敬老会の時に民生委員との交流会を実施する等、地域の高齢者と関係機関が顔が見える連携できる場を定期的にもつ。敬老事業においては、在宅居住者については、民生委員に協力してもらい、行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	今後も高齢者数は大幅に増加することが予想されるため、事業の実施方法についても検討を行う。 高齢者訪問時に、高齢者の実態調査を行っていき、必要な人が必要な支援が受けられるようにする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 29日

中施策事業名	介護予防生活支援事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる
④中施策事業の対象	要支援1, 2及び事業対象者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	重症化が予防できている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防日常生活支援総合事業</li> <li>・介護予防ケアマネジメントについて</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
要介護認定率		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	13.8	13.8	14	14.2	14.4	14.6
		実績値	13.8	14.6				
単位	%							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額	予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		90,958千円	66,175千円		
人件費	a 事業費合計	88,035千円	66,175千円	94,694千円	
	正規職員	人数	0.5人	0人	
		b 金額	2,923千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.5人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,923千円	0千円		
② 補助金等(収入)		77,030千円	57,903千円	0千円	
③ コスト(①-②)		13,928千円	8,272千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		202円	120円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成30年度は、総合事業におけるサービス事業給付費のうち、要支援者の通所が17%減、ヘルパーが25%減となっており、要支援者の給付費全体は0.2%増に抑えられている。全国的に高齢化が進展し給付費の増大抑制が困難な状況下で、大きな成果を挙げている。要介護認定率の上昇は懸念材料である。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	総合支援事業の振り返り	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	給付費（費用額）と重症化率の定期的なモニタリング	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	総合事業サービス費（訪問・通所）の対前年比 H29 訪問+2.5%、通所-5.3% H30 訪問-26.6%、通所-19.4%	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	給付費と重症化率を4半期に1度程度の間隔でモニタリングを実施している	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 29日

中施策事業名	包括支援事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活に係る様々な相談ができる場所を知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括支援センター運営支援に関すること</li> <li>・総合相談支援業務に関すること</li> <li>・高齢者虐待に関すること</li> <li>・成年後見制度に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地域包括支援センターの相談件数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000
	実績値	2,509	5,659				
単位	件						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		87,963千円	81,066千円		
人件費	a 事業費合計	82,118千円	81,066千円	89,684千円	
	正規職員	人数	1人	0人	
		b 金額	5,845千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,845千円	0千円		
② 補助金等(収入)		67,952千円	65,460千円	0千円	
③ コスト(①-②)		20,011千円	15,606千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		291円	227円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	三位一体改革の消費税増税に伴う社会保障の充実の一環として本事業を実施しており、平成29年度に中部包括支援センターを設置し3包括となり、支援体制を充実させた。その結果、年々相談件数が増加している。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	月1回包括ケアカンファレンス（地域ケア会議）の定期開催等による包括支援センター職員の資質向上 月1回以上の管理者会議によるマネジメントの強化	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	地域ケア会議（包括ケアカンファレンス事前打合せ及び個別会議を含む）や管理者会議を通じ、包括支援センター職員の資質向上と包括職員の離職防止のための後方支援を継続する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 7月 1日

中施策事業名	認知症総合推進事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができる		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	認知症になっても安心して生活できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症初期集中支援チーム</li> <li>・ 認知症地域支援推進員の配置</li> <li>・ 認知症キャラバンメイトの養成</li> <li>・ 認知症サポーターの養成</li> </ul>		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市内の認知症サポーターの数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	6,000	6,500	7,000	7,500	8,000	8,500
	実績値	5,388	7,166				
単位	人						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		18,080千円	15,265千円		
人件費	a 事業費合計	15,157千円	15,265千円	16,091千円	
	正規職員	人数	0.5人	0人	
		b 金額	2,923千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.5人	0人	
		金額	2,390千円	0千円	
人件費合計		5,313千円	0千円		
② 補助金等(収入)		12,542千円	12,326千円	0千円	
③ コスト(①-②)		5,538千円	2,939千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		80円	43円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本事業は、消費税財源を元にした社会保障の充実の一環であり、認知症対策に関する事業を新たに義務化され事業拡大していくことが求められている事業である。平成30年度は、認知症サポーター1万人プロジェクトを着実に遂行し、認知症に関する市民啓発やキャラバンメイトの養成に力を入れ、住民の認知症に対する関心が高まっている。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成30年度までは、認知症初期集中支援チーム介入、キャラバンメイト養成講座、認知症サポーター養成講座等、認知症に関する住民啓発に力を入れ、一定の成果を得ることができた。今後は認知症を抱える高齢者の生活課題が解決できるような施策へと転換できるよう調整を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	認知症を抱える高齢者の生活課題が解決できるような施策の実施。認知症1万人プロジェクトの達成。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 29日

中施策事業名	一般介護予防事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	要介護状態になることを防いでいる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域介護予防活動支援に関すること</li> <li>・ 地域リハビリテーション活動支援事業</li> <li>・ 一般介護予防事業に関すること</li> <li>・ 一般介護予防事業評価に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
要介護認定率		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	13.8	13.8	14	14.2	14.4	14.6
		実績値	13.8	14.6				
単位	%							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)			29,591千円	35,949千円	
人件費	a 事業費合計		26,668千円	35,949千円	46,474千円
	正規職員	人数	0.5人	0人	
		b 金額	2,923千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	0人	
		金額	2,121千円	0千円	
人件費合計		5,044千円	0千円		
② 補助金等(収入)			23,334千円	31,455千円	0千円
③ コスト(①-②)			6,257千円	4,494千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			91円	65円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本事業は、介護保険の要支援者のサービス、ヘルパーが介護給付から切り離されて、本事業へと移行したものであり、費用対効果は本事業の事業費ではなく、介護予防給付費の伸びの抑制に着目する必要があるが、本事業の効果によりサービス、ヘルパー事業費の削減と、介護予防給付費の伸びの鈍化の効果が表れている。要介護認定率の上昇は懸念材料。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	大金星体操の普及等を通じた、住民主体の通いの場の拡大	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	住民主体の通いの場の拡大により、元気高齢者の増加及び虚弱高齢者の状態改善・悪化防止を図り、第8期(2021~2023年)「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」推進期間に、要介護認定率の上昇率が抑えられるようにする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	健康マージャン、民間企業の店舗等において大金星体操を活用した通いの場が創出された	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	ドラッグストア店舗における大金星体操を活用した通いの場がスタートした	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	高齢者生きがいづくり事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
④中施策事業の対象	60歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	老人クラブの活動が活発になり、人々が趣味を楽しんでいる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人憩いの家に関すること</li> <li>・老人生きがい推進事業委託（老人クラブ）</li> <li>・老人クラブ連合会補助金に関すること</li> <li>・東部知多温水プール利用助成事業に関すること・食生活改善推進事業</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
老人クラブ参加者 数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	4,650	4,700	4,700	4,750	4,750	4,750
	実績値	4,429	4,298				
単位	人						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)		9,266千円	17,323千円	
人件費	a 事業費合計	8,097千円	17,323千円	17,920千円
	正規職員	人数	0.2人	0人
		b 金額	1,169千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.2人	0人
		金額	20千円	0千円
人件費合計		1,189千円	0千円	
② 補助金等(収入)		1,907千円	1,721千円	0千円
③ コスト(①-②)		7,359千円	15,602千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		107円	227円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	高齢者の社会参加数の増加により会員数は減少している。各地区や作品展、県の広報誌等を通じて老人クラブの活動を伝え、新規会員数を増やすためのPRを行っているが現段階では会員数の増加は至っていない。今後は地域等の集まりに参加し、高齢者の生きがいづくりへとつなげていきたい。老人憩いの家の改修工事や修繕のため事業費は増加している。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老人クラブ会員数を増やすために老人クラブの活動紙等を作成し、周知を行っていく。老人クラブ連合会と老人福祉センター指定管理者で行う老人作品展や芸能発表についても広報や高齢者の集まり等にてPRを行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	各地区にある老人憩いの家を令和4年度に地域譲渡を行うため、必要な箇所については、順次改修していく。地域譲渡に向けて必要な地区については、地域関係者の集まりに参加し、憩いの家の適正利用に向けて調整していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	老人福祉センター運営事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
④中施策事業の対象	60歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	趣味や健康づくりで集まる場所を知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味講座</li> <li>・趣味教室</li> <li>・老人クラブサークル</li> <li>・趣味サークル等</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
老人福祉センター 利用者数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	39,500	40,000	40,500	41,000	41,500	42,000
	実績値	35,056	44,250				
単位	人						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)		13,070千円	15,353千円	
人件費	a 事業費合計	11,901千円	15,353千円	10,938千円
	正規職員	人数	0.2人	0人
		b 金額	1,169千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.2人	0人
		金額	0千円	0千円
人件費合計		1,169千円	0千円	
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)		13,070千円	15,353千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		190円	223円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	指定管理者により、事業を行っているが、健康麻雀等の事業利用者が増えたことや広報等の掲載により、施設全体の利用者数は増えている。入浴者数や団体者数は減っているが、らくらすの利用者やきずな室の利用者は増えており、利用者の満足度も高い。行事の中で多世代交流や作品展や芸能発表を通じて生きがいづくりへとつなげている。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老人クラブや他関係団体に周知し、老人福祉センターの活用方法を検討していく。指定管理者が変更したため、アンケート等を実施することで利用者の声を反映する機会をつくると共に、自主事業については指定管理者と協議しながら対応していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	定期的にアンケート調査を行い、利用者のニーズを反映する機会を作っていく。また、作品展や芸能発表を通じて周知を行っていく。自主事業についても指定管理者と協議しながら充実させていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	高齢者在宅サービス事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	高齢者及びその家族		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	サービスの利用で家族の負担が減っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・外出支援事業 ・理髪サービス事業 ・寝具クリーニング事業 ・寝たきり老人介護手当 ・緊急電話設置		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
外出支援の利用数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	4,150	4,200	4,250	4,300	4,350	4,350
	実績値	3,888	3,689				
単位	回						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)		12,002千円	6,688千円	
a	事業費合計	10,833千円	6,688千円	7,126千円
	正規職員	人数	0.2人	0人
		b金額	1,169千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.2人	0人
		金額	20千円	0千円
人件費合計		1,189千円	0千円	
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)		12,002千円	6,688千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		174円	97円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	家族介護用品事業の廃止や配食サービスの事業見直し、チョイソコ等の新たな外出支援方法が増えたため、利用者数は減っている。支援が必要な人及びその家族の負担が軽減できるよう事業を行うことができおり、必要な利用者は利用していると考える。事業内容の充実や対象拡大については今後も他事業との調整を行いながら慎重に検討を行っていく。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	チョイソコが運行し始め、より多くの高齢者が外出する方法が増えている。サービスを利用することで支援が必要な人の家族の負担の軽減につながっている。利用者の満足度も高いため、より多くの人ができるように今後も周知や事業内容の検討が必要である。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	事業周知を行い、適正な利用者が利用できるようにしていく。高齢者の外出支援策については、チョイソコの活用方法の周知も含めて検討していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 29日

中施策事業名	生活支援体制整備事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	身近な地域で助け合える環境をつくる
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	高齢期の生活に必要なサービスを知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援コーディネーターに関すること</li> <li>住民主体の生活支援体制に関すること</li> <li>高齢者外出支援事業に関すること</li> <li>在宅福祉推進活動委託に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
生活支援訪問サービス実利用者数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	30	40	50	60	65	70
	実績値	56	107				
単位	人						
ちやっと実利用者	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	30	50	60	70	80	90
	実績値	57	151				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		13,729千円	9,321千円		
a	事業費合計	7,884千円	9,321千円	12,812千円	
	正規職員	人数	1人	0人	
		b金額	5,845千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	0人	
		金額	2,121千円	0千円	
人件費合計		7,966千円	0千円		
② 補助金等(収入)		6,524千円	7,526千円	0千円	
③ コスト(①-②)		7,205千円	1,795千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		105円	26円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	おたがいさまセンターの事業が軌道に乗り、ゴミ出しや草取りなど介護保険サービスで対応できない多様な生活の困りごとに対応できる体制となった。(おたがいさまセンター利用者実人数151名(延べ1864名))
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	サポーター養成講座の定期開催(地域、認知症サポーター、学生向け等) サポーター交流会、勉強会の開催	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	おたがいさまセンターで認知症の方への対応も可能な体制が整うよう調整する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	シルバー人材センター関係事務	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	33 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている		
②大施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場を増やし、収入と生きがいを得ることができる環境をつくる		
③中施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場をつくる		
④中施策事業の対象	60歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	仕事をし、生き生きした高齢者が増えている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	シルバー人材センターに関すること 老人クラブ連合会補助金に関すること		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
受注件数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	2,250	2,300	2,350	2,400	2,450	2,450
		実績値	2,019	2,122				
単位	件							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)			26,382千円	26,477千円	
人件費	a 事業費合計		25,213千円	26,477千円	26,837千円
	正規職員	人数	0.2人	0人	
		b 金額	1,169千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.2人	0人	
		金額	20千円	0千円	
人件費合計		1,189千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			26,382千円	26,477千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			383円	385円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	暑い時期に受注できなかった屋外作業も多い中、受注件数は増えている。登録者も微増しており、作業を通じて地域社会との関わりや生きがいを持つことにつながっている。シルバー人材センターと定期的に連携し、協力しながら、広報の掲載や広報誌の作成も行って、PRや周知に努めている。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	受注件数を増やすために受注先となる企業にもPRを行っており、効果が出ている。新たな受注者拡大に向けてちらしの配布や会員誌の発行を行っている。また、シルバー人材センターとも定期的に連絡会を行い、事業の報告や検討を行っている。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	シルバー人材センターに登録し、活動する高齢者が増えるように周知・PRを行っていく。今後も受注できる企業を増やすための取り組みを検討していきたい。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		